

## 研究テーマ：岩見沢・松山間情報交流事業に関する研究開発(1/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A17002)

研究機関： 愛媛大学、岩見沢市、松山市

**研究の概要：** I T施策を集中展開することにより地域経済活性化を図る I Tビジネスモデル地区に指定されている（総務省、平成16年4月5日）岩見沢市及び松山市間で各種交流事業を立案実施する。相互の情報交換、市民交流、個別事業の拡大等を、産官学の体制で立案実施し、それに伴う技術的課題を解決する。

(研究分野)

- ・ 講演会中継等の、高精細動画像のリアルタイム双方向伝送
- ・ コンテンツ流通基盤の設計、運用
- ・ 教育、観光等各種公共コンテンツの制作技術および流通技術
- ・ 公共コンテンツの流通ビジネスモデルの検討、実証

**研究の目的：**

- ・ 地域公共ネットワークの相互接続用バックボーンとしてJGN II を利用する場合の問題点の抽出とその解決方法の研究開発
- ・ 地域特性を活かす I C T社会創造に向けた情報交流事業の推進とそれに必要な要素技術の研究開発

**実験機器構成：** 図1にイベント-202: ICT 利活用セミナー2007 -超高速回線を活用した地域映像流通の未来- (2007年2月14日実施)の場合を例に示す。

**研究開発成果：**

DV over IP 伝送装置の開発は、関連 JGN イベントに使用することによって徐々に改良され、マルチキャストが使える環境下で多地点ビデオ会議システムができるようになった。

また、本研究は岩見沢市及び松山市間で各種交流事業を立案実施することを主眼におき、相互の情報交換、市民交流、個別事業の拡大等を、産官学の体制で立案実施し、それに伴う個別の技術的課題を解決していった。研究期間内で6回関連イベントを実施した。最近では、2007年2月14日にコンテンツ流通実証実験を総務省北海道総合通信局主催で実施した。この成果は以下のとおり。

- ・ 松山市が、IT を活用した観光振興策として実施している“まつやまインフォメーション”のアピール、およびその新しい使い方として DV over IP 伝送を市内繁華街から実施することに成功。
- ・ 小学1年生に対する遠隔授業のありかた：情報リテラシが未熟である分、高画質な映像を双方向でストレスなく見せることが重要であり、さらにそれを前提にした教材づくりのなかで、地域コンテンツが重要であることを相互に確認できた。

# 研究テーマ：岩見沢・松山間情報交流事業に関する研究開発(2/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A17002)

研究機関： 愛媛大学、岩見沢市、松山市

実験機器構成：

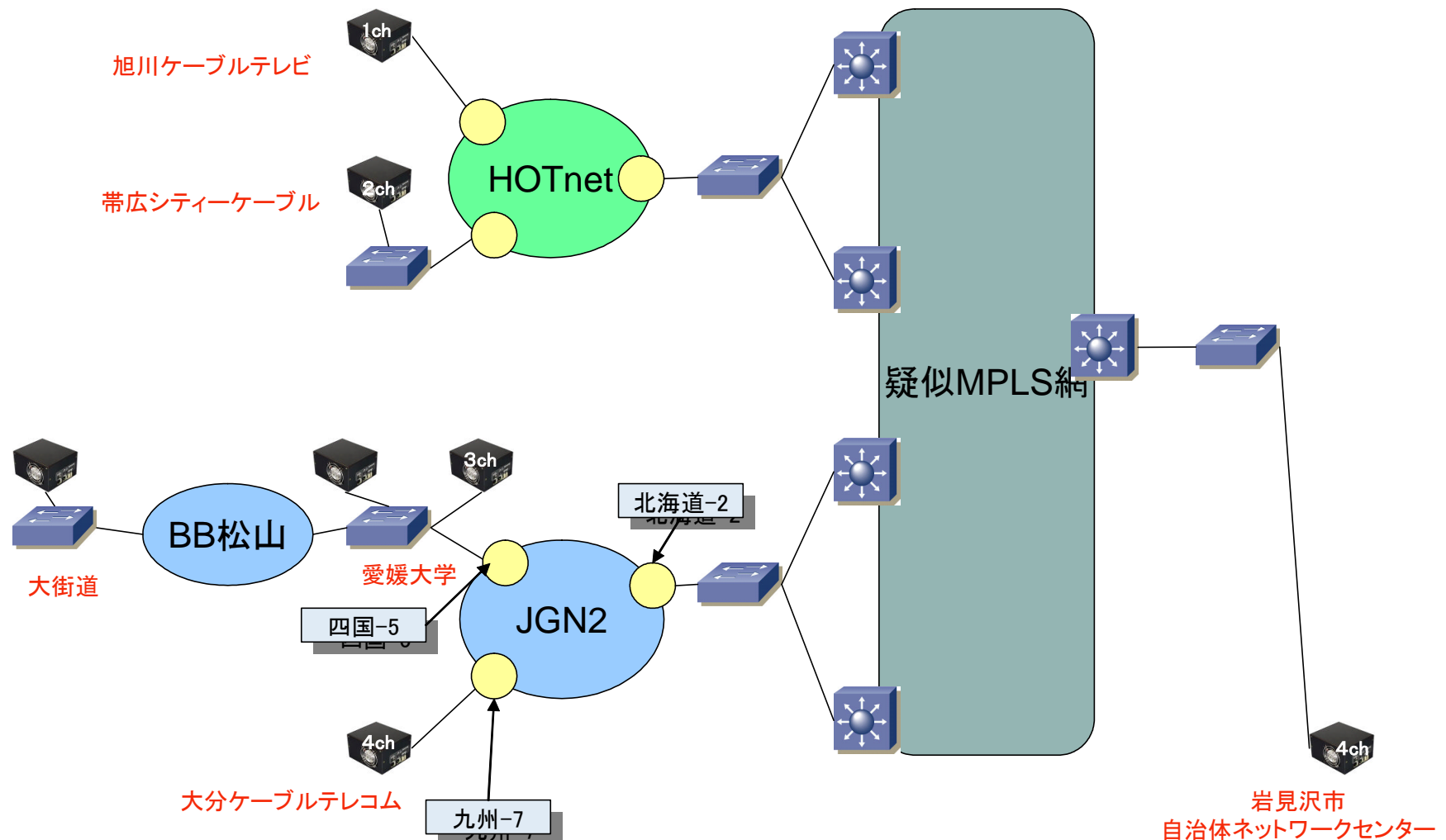


図 1. イベント-202: ICT 利活用セミナー2007 の場合. (2007 年 2 月 14 日実施)

プロジェクトのアピールポイント、プロジェクトの自己評価:大半の自治体で、地域公共ネットワークの整備が完了したにもかかわらず、その利活用はあまり進んでいない。本プロジェクトでは地域公共ネットワーク間の相互接続バックボーンとしてJGN回線が非常に有効であることを、多数のイベント（関連イベントを含めて6回、大半は後日CATVの番組として再放送した）を通じて市民に伝えることができた。

松山側では地域公共ネットワークに多数の地元キャリアが乗り入れ(Bフレッツ、電力系、CATVのIP系とテレビ系、FOMA)11箇所のサテライト会場とリアルタイム接続し、しかも放送できる品質の番組を作ることができることを実証したことは、今後のコンテンツ流通基盤を検討するうえで大きい成果であった。

地域公共ネットワークで期待されている利活用分野が教育である。コンテンツの製作やその流通基盤整備に力を入れている岩見沢市の主導で、小学1年生を対象にした遠隔授業も実施した（大分、松山、岩見沢の3校同時）。情報リテラシが未熟である分、高画質な映像を双方向でストレスなく見せることが重要であり、さらにそれを前提にした教材づくりのなかで、地域コンテンツが重要であることを相互に確認できたことも有効であった。このイベントのあと松山では、徳島の小学校との年間を通じた交流事業が始まるきっかけとなり（JGN2-A19008）、来年はさらにその交流の輪が他県にも広がりそうな状況になっており今後の更なる波及効果が期待される。